

2024年
(令和6年)
5月28日
一増刊一
(第三種郵便物認可)
昭和23年4月15日
毎月3回発行
(第1、第2、第3火曜日)

今号の特集
▷中京地区有力
問屋特集(第1部)⑧~⑨面
▷ソース特集 ⑩面
中部飲食料新聞社ホームページ
<http://chuin.net/>【業界情報発信中】



第3508号
発行所
中部飲食料新聞社
名古屋市中村区名駅5-18-9
電話(052)571-7116代表
FAX(052)571-7118
東京局
東京都中央区日本橋横山町1-4-203
電話(03)5614-7531
FAX(03)5614-7532

大正から
食を伝えて100有余年
中部飲食料新聞

三菱食品

新経営ビジョン策定

キャッシュ型の成長戦略を描く

三菱食品は、経営ビジョン「MS Vision 2030」の100年へ、食が創造する未来へ、たすきをつなぐ」を策定した。
同社は現在の外部環境を①国内人口の加速的な減少(国内需要の縮小と変化)②テクノロジーの進化(リアルとネットでのハイブリッド競争激化)③地政学リスクの高まりやサステナビリティ課題の深刻化(複雑化する社会的要請)④将来の子息の低下(組織や人材の学習スピードの重要性)と認識。新経営ビジョンの全体像として、「中経2023」のパーパス「食のビジネスを通じて持続可能な社会の実現に貢献する」に、「サステナビリティ重点課題の同時解決」を加えた。
30年度に向けて▽環境

技術を活用し業務を変革し、サプライチェーン全体の効率化と生産性向上に貢献」の4つの重点課題と10の目標に継続的に取り組む。
定量目標は経済価値として、30年度に経常利益五〇〇億円(純利益三五〇億円)、配当性向40%以上、ROE10%以上維持、累進配当政策維持。環境価値として、社員エンゲージメントスコア70%以上、FTSE E・ESG4以上、食品廃棄量50%以上削減(16年比)、CO2排出量60%削減(同)。更新投資八〇〇〇億円、成長投資一〇〇〇一五〇〇億円を計画。
京谷社長は「MS Vision 2030」では30年ごろに実現した未来を、チャレンジングな目標設定とともに仮

ポッカサッポロFF&B
キャラバンカーで「レモン食育」

ポッカサッポロフード&ビレッジは、レモンの価値を伝える食育活動をより多くの消費者に伝えるため、同社のレモン公式キャラクター「レモンじゃ」をデザインしたキャラバンカー「レモンじゃカー」による食育イベントを、5月16日から開始した。
今回の企画は特に親子をメインターゲットにした食育イベントで、「ポッカレモン」など同社レモン商品を販売している量販店やイベント会場のスペースなどで行う。実施会場ではレモンの機能性や美味しく摂取できる提案などを分かりやすく伝えるレモンじゃによる紙芝居のほか、着ぐるみ撮影会、レモンじゃグッズズブレゼント、レモンと牛乳とハチミツで作った「レモンラッシー」試飲

などを実施。また量販店限定として商品売場などと連動したスタンダラリ企画も用意するなど、親子に向けて、レモンの価値を伝えるほかレモンのファン化を図る。実施エリアはまずは名古屋や東京、大阪で実施し、その後全国に広げる計画。
同社は基幹とするレモン事業で、「レモン」をはじめとした植物性素材を中心に、毎日の生活に寄り添い、元気と笑顔を応援します」とした食育指針を掲げ、①毎日の健康を支える②毎日の食生活を彩る③地域に根差した強い絆づくりの3つの柱

に合わせ、これまでの短期スパンの緻密な積み上げ方式の計画ではなく、100周年であり、全てのステークホルダーとともに価値観を共有し、次の100年に向けても持続可能な食のサプライチェーンが機能し、新たな食の価値が継続的に創造できるより時代に切り開いていきたい」と述べた。
企業として社会責任を果たすため、循環型モデル構築を目指して、長期環境戦略2050」を策



「多拠点一括電力融通を開始」
ハウス食品グループの発電能力を有し、同一企業グループへの電力融通は拠点数として国内最多。本取組により対象となる拠点のCO2排出量は16.3%削減(22年度比)。年度比とする見込み。
5月15日の記念式典に先立ち浦上博史社長は「ハウス食品グループは

「多拠点一括電力融通を開始」
ハウス食品グループの発電能力を有し、同一企業グループへの電力融通は拠点数として国内最多。本取組により対象となる拠点のCO2排出量は16.3%削減(22年度比)。年度比とする見込み。
5月15日の記念式典に先立ち浦上博史社長は「ハウス食品グループは



「多拠点一括電力融通を開始」
ハウス食品グループの発電能力を有し、同一企業グループへの電力融通は拠点数として国内最多。本取組により対象となる拠点のCO2排出量は16.3%削減(22年度比)。年度比とする見込み。
5月15日の記念式典に先立ち浦上博史社長は「ハウス食品グループは

自然のおいしさ!!
ゴジマ ジヤム
小島食品製造株式会社
本社 東海市名和町一番割中25
電話 (052)603-3511

味の素冷凍食品
中国での事業構造強化
味の素冷凍食品は、中国での自社工場を集約・強化し中国での冷凍食品事業の構造強化を図り、さらなる採算性と資産効率の向上を図る。
味の素冷凍食品と味の素(中国)社およびライフェーズ(東京都中央区)は、連雲港味の素如意食

誰も言わないので
ロシアのウクライナ侵攻などを発端とする各種コスト増や円安基調が依然継続しており、日本経済はかき鳴り、流通業界に大きな変革が求められている。とりわけコスト増&円安基調↓価格改定↓賃金アップの流れは、少子化の加速による人材獲得という要因も加わり、新入社員などに恩恵が見られる。ここで割を食っているのが93'05年頃に社会人となった第2次ベビーブーム世代、いわゆる氷河期世代(ひどい言われようだ)だ。思えばこのポリウムゾーンを冷遇したことが今の少子化をもたらしたと言ってもいいだろう。今さら手厚い子育て支援とか言われても、である。あの時代の政治・政策が果たして正しかったのか。正しい検証がなければ成長は無い。かの敗戦の正しい検証が今もってなされてないように。

を組上げる方式に改められた。来年度の25年は当社前身の北洋商会の創業から100周年であり、全てのステークホルダーとともに価値観を共有し、次の100年に向けても持続可能な食のサプライチェーンが機能し、新たな食の価値が継続的に創造できるより時代に切り開いていきたい」と述べた。
企業として社会責任を果たすため、循環型モデル構築を目指して、長期環境戦略2050」を策

伝〜統 おいしいお付き合い
で〜んと
マルヤマ おつまみセット
マルヤマ 田吾作セット
乾物・総合食品商社
マルヤマ印製造元
西山商事株式会社 株式会社 **まるやま**
〒454-8533 名古屋市中川区富田町大字千音寺16割 TEL. 052-431-8451(代)

<http://www.k-komachi.co.jp>
KOMACHI
JAS 日本認証サービス 認定番号 MPJP1643
れんこん：全7種
ぜんまい：全2種
たけのこ：全9種
ごぼう：全2種
常温にて保存可能!!
(れんこんは要冷蔵所保存)
1Kg水煮パックシリーズ
カットやサイズなど、ご希望の製品規格を小ロットにて製造対応致します。
株式会社北村商店 TEL:052-571-2381 FAX:052-583-1188
名古屋市中村区名駅五丁目29-10 錦通KDビル4階